

AkzoNobel 第2四半期の見通しを修正・Coatings World の記事より

● 金曜日 - 24 6 月 2022

Coatings World 誌に 6 月 16 日付で掲題の記事が掲載されました。全文を Google 翻訳+手直して訳してみましたので、ご紹介します。(記事は下記 URL からご覧ください)



https://www.coatingsworld.com/contents/view_breaking-news/2022-06-16/akzonobel-updates-its-second-quarter-outlook/page_2?widget=trending

『AkzoNobel 社は、中国のロックダウンの影響や欧州・中東・アフリカ地域の DIY シーズンの開始が遅れていることなど、変化するビジネス環境の影響に基づいて 2022 年第 2 四半期の見通しを更新しました。

塗料とコーティングの全体的な需要の兆候は依然として堅調であり、北米においては依然として原材料の入手可能性と物流に制約があるものの、順次改善しています。また欧州では、消費者の信頼性に関するマクロ経済の不確実性が増しています。

欧州の DIY の販路における消費者需要(欧州・中東・アフリカ地域の建築分野の総収益の 40%を占める)は、第 2 四半期にスロースタートを切ったものの、その後 DIY 販路における在庫削減の影響を享受し、6 月には DIY 販路の需要が 2019 年の水準に回復しました。株式市場における収益の増加と建築塗装事業が予想通りに業績を上げているにもかかわらず、建築塗料部門の第 2 四半期の総営業利益は、第 2 四半期の予想に対して約 5,000 万ユーロ減少すると予想されています。

第 2 四半期において中国の COVID-19 のロックダウンは、**塗料とコーティング**の両方に影響を与えています。この影響は主に**コーティング**事業に及んだものの、**塗料**は地理的拡大の取り組みを進めることでほぼ相殺することができました。6 月の社会活動の再開はプラス側への反発を見せていますが、第 2 四半期の売上高不足を補うには不十分であり、第 2 四半期の予想に対し、当四半期の営業利益は約 4,000 万ユーロ減額になると予想しています。

「現在のビジネス環境は複雑で、常に新しい動きをしています」とアクゾノーベルの CEO ティエリー・ヴァンランカーは説明します。「マクロ経済の不確実性を考えると、下半期の取得原価の調整と運転資本の最適化を加速しながら、成長の先駆けとなる進展を続けています。」

「6 月の事業動向は以前の見解とほぼ同じですが、価格改定は原材料と物流のインフレを上回る早さで進めています。私たちは、成長と供給の理念を実現することに引き続き注力していきます。」

アクゾノーベルは、不安定な市場環境が 2022 年第 2 四半期の財務に重大な影響を与えているにもかかわらず、2023 年の調整後 EBITDA の目標値である 20 億ユーロの達成に引き続き注力しています。』

注)塗料:建築用塗料 コーティング:機能性塗料

簡単に要約すると、「**中国のロックダウンの影響や欧州・中東・アフリカ地域の DIY シーズンの開始が遅れていることなど、の要因により予定していた第 2 四半期の営業利益が約 9000 万€(約 130 億円)減少すると見通しとなった。ただし、2023 年の目標値は変更しない**」となります。

因みに AkzoNobel 社は、2022 年第 1 四半期の報告書において、2023 年の調整後 EBITDA を 2021 年の 14 億€から 20 億€に高めるという目標であることを述べています。一方 2021 年の第 2 四半期の調整後の EBITDA は 4 億 1900 万€であり、2022 年の第 2 四半期の調整後の EBITDA の目標は 4 億 5000 万€程度と推測されます。今回の修正により第 2 四半期の EBITDA は 20%以上の減額予想ということになります。

また、営業利益と調整後 EBITDA の関係は、 $\text{営業利益} = \text{EBITDA} + (\text{有形・無形資産}) \text{原価償却費}$ です。上記の Coatings World の記事では、この両者が使い分けられていました。